

～地域が連携し、市民の学びをいかした  
生涯学習社会の実現に向けて～

（ 提 言 ）

平成24年3月

平塚市社会教育委員会議

## 目 次

1	はじめに	1
2	各分科会の研究調査結果	
1	第1分科会	3
2	第2分科会	11
3	第3分科会	29
3	あとがき	33
	委員名簿	34

### 資料

第1分科会「心に残る子育て応援メッセージ集」

第2分科会「公民館活動の現状に関するアンケート調査」

第3分科会「地区公民館事業における食に関する事業調査」

## 1 はじめに

近年、少子化・高齢化の進行や国際化・情報化の進展、産業構造の変化など、急激な社会の変化の影響を受け、様々な課題が生じているように思います。地域の間人関係の希薄化や、育児不安の広がり、しつけへの自信を持たない保護者の存在などもその中の一つといえるのではないのでしょうか。また、社会性や規範意識の低下、学力低下問題や若者の自立をめぐる課題などが指摘され、混乱を深めている様子もうかがえます。

そのような中、平成18年に教育基本法が改正され、「生涯学習の理念」、「家庭教育」、「学校、家庭、地域住民等の連携協力」、「教育振興基本計画」が改めて規定されました。

神奈川県は、おおむね20年を見通した「かながわ教育ビジョン」を平成19年に策定し「心ふれあうしなやかな人づくり」を理念とした教育の指針を示しています。

本市においては、教育振興基本計画「奏プラン」を平成22年に制定しました。本市が行う事業が、各課同士の機能的連携のもとにすすめられ、市民との協働によって豊かな生涯学習社会の実現に向かっていく姿を「協奏曲」に見立て「奏プラン」と名づけられています。この中では、「はじめに子どもありきの教育」、「豊かな人間性をはぐくむ教育」、「地域に根ざした教育」、「相互理解を基調とした教育」という4つのコンセプトを教育推進の根底に捉えながら、「市民の学びをいかした生涯学習社会の実現」を本市教育委員会の指針としています。

私たち社会教育委員会では、これらの背景や本市の「奏プラン」を踏まえ、学校、家庭、地域それぞれの現状と課題、期待される役割について検討してまいりました。

具体的には、3つの分科会にわかれてテーマの研究調査を行いました。第1分科会は、「地域の中での規範意識の低下に関する問題について」、第2分科会は、「公民館の現状と課題—公民館主事へのアンケート調査結果から—」、第3分科会は、「食育の意義や重要性を再認識し、社会教育の視点から食に関する平塚市の現状と課題を把握し、これからの方向性について提案する—公民館の諸事業に食育活動を取り入れるための提案—」をテーマに掲げ、事例調査を実施するとともに社会教育の充実をめざして議論を重ねてまいりました。

この提言の趣旨を踏まえた取組みが市内各地で実践されることを期待するところではあります。

さらには、「奏プラン」に示した市民の学びを活かした生涯学習社会の実現を基本理念のもと、人それぞれが自分の個性や持ち味を発揮し、認め合い、高め合って成長を続ける循環型の「学習社会」、人の発達段階やニーズに応じて主体的に学びの場が用意されている「学習社会」が実現されるように、本市社会教育委員も尽力してまいりたいと思います。

## **2 各分科会の研究調査結果**

### **1. 第1分科会**

#### **地域の中での規範意識の低下に関する問題について**

##### **(1) テーマの選定にあたって**

現代、人々の生活はインターネットや家電製品などの普及によって、めざましいスピードで便利になった。それに伴い、様々な価値観が変化し、人と人とのコミュニケーションのスタイルが変わってきたのではないだろうか。伝えたいことがうまく話せない、困っていることがあっても相談できないなど、言葉によるコミュニケーションに不安が感じられる。こうした中、これまでのように社会規範は継承されているのだろうか、危機感を感じる。

そこで、第1分科会では、現代の地域社会における問題について考える際、「地域の中での規範意識の低下」という視点で話し合いを進めることとした。

その中で、核家族化や少子化を背景として、若い親世代の育児に対する不安や、家庭内での教育力の低下が、地域社会の規範意識の低下と関わっているのではないかとの共通認識をし、親と子ども、地域と子どものつながりの支援となる取組みを考えた。

##### **(2) 現状と課題**

赤信号を堂々と横断する、イヤホンや携帯電話を使用しながら自転車を運転する、ゴミ出しのルールを守らない、給食費を払わない・・・等々、おそらく10年前にはあまり見かけなかった現象が、今さまざまな場面で見受けられ、トラブルを引き起こしている。

私たちが継承すべき社会規範とは何か、どのようにそれを次の世代に伝えていけば良いのだろうか。また、かつての規範意識を根本的に取り戻すためにはどのような手立てが有効なのだろうか。

私達は、多少遠回りをしてでも確実に前進する方法がないかと何度も議論を重ね、規範意識を高めるためには「人の立場に立って物事を考えることが重要である」と一つの結論に至った。人の立場に立って物事を考えることで、思いやりの気持ちがうまれ、希薄な人間関係の改善につながるのではないだろうか。そうすることで、地域の中での人と人とのつながりを見直すきっかけがつけられるのではないかと考える。

そこで、子どもを育てる大切な役割を担っている方々へ、「みんなで子どもを育てよう」という子育て応援メッセージを募集することとした。未来をつくる子どもたちへ伝えたいこと、子育てしている人たちに伝えたいこと、地域で共に生きる大人として伝えたいこと

などをメッセージとして募集することで、何か思いがうまれ、はぐくまれるきっかけになるのではないかと考えた。

メッセージの募集については、より多くの方にこのテーマについて考える機会を設けてほしかったため、公民館や各種団体などに依頼して応募用紙を配布し、広く平塚市民に呼びかけた。その結果、2ヶ月足らずで84点の素晴らしい応募作品を集めることができた。

メッセージを作成する時は、メッセージを考える事で忘れかけられている規範意識について考え、反対にメッセージを読む時は、そのメッセージを受け取る事で今自分が何ができるか考えるきっかけとなる。その結果、一人でも多くの人が不安から開放され、みんなで子どもを育てるといった安心感を支えとして子どもと接することが事態を好転させるのではないかと考えた。

以下、応募された作品を紹介する。

### 「心に残る子育て応援メッセージ集」応募作品一覧

- 1 じじばばは 子、孫、ひ孫につたえたい やさしい心と思いやり
- 2 好きなこと つづけることは力となり やがて花咲き 実を結ぶ
- 3 さりげない その一言で育つ子ら 地域 みんなではぐくもう
- 4 子と共に ゆとり教育 親こそ参加
- 5 たくさんの素敵なお大人と出会うことが素敵なお大人に育つ方法
- 6 大人は子どもの鏡 朝は「おはようございます」のあいさつから
- 7 ゆっくり あせらず 一歩ずつ あなたらしさが 子育て上手
- 8 泣いて 笑って 進もうよ、子供の声が 幸福を運ぶね
- 9 見守ろう この子も その子も 地域の子。
- 10 助けあい、見て育つ子も 助けあう。
- 11 泣け、笑え、怒れ、一人で悩むな、友は隣にいる。
- 12 一日は「あいさつ」ではじまり、「あいさつ」でおわるの、やくそくしようね！
- 13 「おはよう」「こんにちは」みんな、笑顔になれるネ！
- 14 近からず 遠からず 寄りそって 見守る
- 15 我が子 人の子 みんなの子
- 16 子育ては、「ゆっくり」「じっくり」「ゆったり」 3つの「り」で親子幸せ。
- 17 遊んじゃおう！トコトン一緒に楽しもう！
- 18 君の夢 育てていこう 明日を向き
- 19 夢持てる社会は みんなで作るもの。
- 20 あの子にも この子にも 愛深く 育てていこう 明日の子らを
- 21 元気よく あいさつができるひとでいよう
- 22 “ありがとう” とってもきもちがつうじるね
- 23 ほめられて、しかられて、みんなで育てる地域の子供

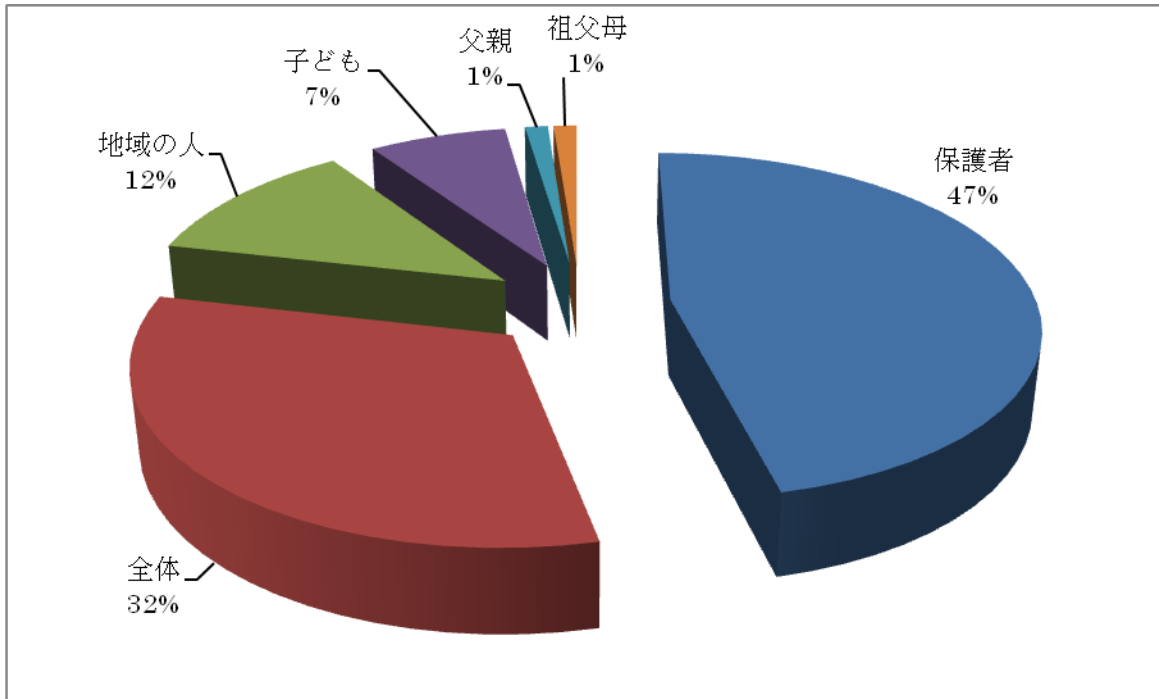
- 24 食べる 遊ぶ 寝る 勉強 みんな大事な子供の時間
- 25 健やかに 育つ子供は天使のよう やさしく強く いたわって見守る
- 26 上手に褒めて 心のバランス養おう 子供は自然に輝いてくる
- 27 純粋な 子どもの瞳は 地域の希望 パパママ いつでも 頼ってね
- 28 正しい 子育て 知らないけれど なまいきに しかってる 私です
- 29 大丈夫！赤ちゃんは、壊れそうでもかなりしぶとい生き物だから
- 30 兄弟喧嘩は完全無視！仲良し兄弟の作り方
- 31 「上手！すごいね！」と言われると、やる気になるのは大人も同じ
- 32 我が子の心が読めない時は、我が身をタイムスリップさせてみて！
- 33 「感謝」の反対語は？答えは「あたりまえ」ドキッ！・・・反省。すべてにありがとう！
- 34 いろいろあるけど・・・生きてさえいれば、人生なんとかなるもんだ
- 35 子は若木 伸びるのが好き できたとき 分かったときの 笑顔輝く
- 36 胸を張れ、前を向け、上を見よ、 子供が真似する 親を見て。
- 37 人の子も我が子も同じ、地域の子
- 38 笑顔から つながる人の輪 心の和
- 39 やわらかな 心を育む 笑顔の輪
- 40 目を閉じて 心をゆるめて 息吐いて あなたは十分頑張っている
- 41 待ってます、あなたの何げない一言を
- 42 「孤育て」なんてありえない みんなでワイワイ楽しみながら親やっといこうよ。43  
今大変でも数十年したら あの頃良かったなあって 思うよきっと。
- 44 気軽にあいさつ にっこり会釈から（始めよう）
- 45 給食の こんだてヒントに 食材増やそう
- 46 子どもをたたきたくなったら・・・、10秒数えよう。
- 47 育児トラブル、お父さんの出番です。
- 48 あなたの子どもは 社会の子。皆で育てよう。
- 49 育児が辛い時は、助けを求めていいんだよ。
- 50 時が解決するよ 今の育児の大変さ。
- 51 お父さん、お母さん、子どもの方が大人かも？
- 52 子育て 終えたら 後輩ママを応援しましょ。
- 53 子ども独立、5才のあの子にもう一度会いたい。
- 54 未来をつなぐ子供達、生き生き、キラキラ輝く瞳。
- 55 あたたかい家庭が太陽ならば、照らされて育つ私は、体の木。
- 56 子供の姿は、私自身。鏡に映して見直す私も、自分自身。
- 57 子育てに一生懸命 一緒に懸命
- 58 子育てはにらめっこ。どんな顔でも向き合えば、やがて笑顔になる。

- 59 子どもにとっては「大好きなお父さん、お母さん」ダメな親なんて、いないんです。
- 60 親も子も無理しない。
- 61 寛容と厳しさのさじ加減を大切に！
- 62 お父さんは頼りになる。お母さんは甘えさせてくれる。その二人がいがみ合っていると悲しい。
- 63 “勉強がキライな子”や“勉強をあきらめている子”に必ず声をかけます。「いっしょに勉強しよう！」って……。すべての子が“勉強しなきゃいけない”と思っているからです。
- 64 「おはよう」と声をかけたら「おう」と返ってきました。次の日「おはようございます」と声をかけたら、同じ言葉が返ってきました。
- 65 「負け試合 なのに母ちゃん 拍手する」親だけは味方なんだと伝えたい。  
(川柳より引用)
- 66 一日一度は家族で食事
- 67 食育は母の手作り朝御飯
- 68 他人の子に挨拶交わして明るい地域
- 69 あせらないで！子どもはゆっくり 育ちます。
- 70 会話を増やし、家庭の絆を深めていこうではないか。
- 71 「うちのうち、よそはよそ」で必要な忍耐力を身につけさせてはどうだろうか。
- 72 思春期の子どもから逃げず、勇気をもって正面から向き合おう。
- 73 つらいとき思いっきり泣いてすっきり笑顔そして次の一步を踏み出しましょう。
- 74 君たちの光り輝く未来へと翼をひろげ飛び立とう！
- 75 我が子にも近所の子にも親の目で叱って育てて明るい未来
- 76 我が子にも近所の子にも親の目で褒めて褒めて明るい未来
- 77 いい親になりたくてがんばる事は大切！でもがんばりすぎないで
- 78 一人で悩まないで困りをみて きっと相談のってくれる人がいるはず
- 79 困った事があったら声をだそう 助けてくれる人 すぐそばにいるよ
- 80 悪いこと しないさせない みんなの目
- 81 子どもはね、とにかくお腹を満足させれば悪い事はしないんだよ。
- 82 手を休めて子どもの方を向き食卓に座ってごらん。そこから始まる。
- 83 抱きしめて 今のこの子の この思い
- 84 その笑顔 どんな言葉も越えていく

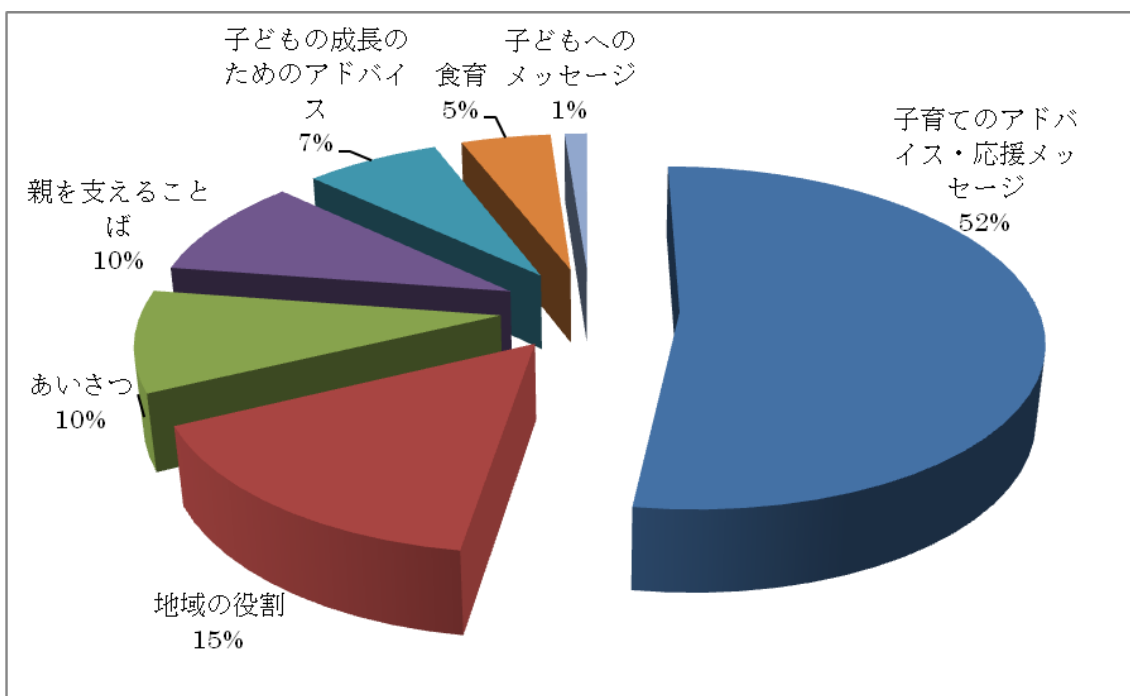


## 募集作品 分析

### 1. 誰に呼びかけたものか



### 2. メッセージの内容



### 3. メッセージの内容から読みとれる想い

- (1) 子育てを一人で背負うのではなく、地域で子を育てよう
- (2) ありのままのあなたを大切にしましょう
- (3) 子どもの今と将来を見つめて、育てましょう
- (4) 困った時は周囲に助けを求めましょう
- (5) 完璧な親はいません、学びながら成長しましょう
- (6) 子育てを楽しもう
- (7) 挨拶・笑顔・感謝の気持ちを大切にしましょう

応募作品の過半数が、保護者に向けて「あなたはひとりではない、ひとりで頑張りすぎないで、辛かったら誰かを頼って、焦らないで」という、子育てを温かい眼差しで見守り、応援する内容だった。そこから「子どもは地域の子、みんなで子どもと向き合おう、笑顔であいさつを交わし合おう」という意識が今も大切にされていることがわかった。少し前の時代には当たり前存在していた地域の姿だが、現代でもそれは、多くの方が望んでいるものだとわかった。

また、そのほかに、「子どもの気持ちになる」、「挨拶・笑顔感謝の気持ちを大切に」、「食育」、「子育てアドバイス」という内容のメッセージも多く寄せられ、常日頃から深い感心を持ち、実践している先輩方の「熱き想い」に触れることができた。

応募されたメッセージは、社会教育委員会議で話し合い、その中から31作品を選考した。そして、31日分の日めくりカレンダーを作成し、成果物とした。公共の場や家庭に掲示して活用していただくことを加えて提案としたい。

「地域の中での規範意識の低下に関する問題について」議論を重ねてきた中で、子育ての責任を家庭だけで負う傾向があり、地域とのつながりが希薄であることが問題なのではないかと危惧された。今回応募のあったメッセージからは、地域の方の強い想いが伝わってきた。今後の家庭教育支援は、「地域みんなで支えあうことを理解し、親同士や地域とのつながりをつくるような取組」を進める必要があるのだろうということも見えてきた。

### (3) 提案

生活を支えている規範意識とは、大人特に子どもの保護者の影響が大きいと考えられる。本市でも、近年規範意識の低下は著しく、ルール無視による自転車事故や盗難等は神奈川県内でもワーストに入ると聞く。それは大人の「ミーイズム」に表現される自己中心的な考えに起因すると思われるが、その変革には難しいものがある。

しかしながら、地域によっては地元の子どもの地域で大人が我が子のように接したり、声をかけたりし、子ども関連のボランティアに参加したり中学生をボランティアとして受け入れながら、規範意識を含めた地域社会の重要な要素を子どもたちに教え伝えている実践も見受けられる。

そのように大人や保護者が協力して地域の子どものに接することが、実は子どもだけでなく大人本人への規範意識の植え付けや向上に連動しており、今だからこそ必要なことと考えられる。

そのための手段として、第1分科会では規範意識の向上には同じ目線からの「呼びかけ」が有効な方法であると考えた。そこで作成したものがこの「心に残る子育て応援メッセージ集」である。

一般市民からの公募形式をとり、お仕着せでない市民の生の声や熱い思い・深い願いを広く募集することができた。

このメッセージ集を話題にして家庭や地域などでコミュニケーションをとっていただき、子育てに役立てていただくことを提案したい。そして、少しでも多くの方の気持ちが元気になることを第1分科会一同望んでいる。

- ① 成果物「心に残る子育て応援メッセージ集」1000部を持って提案とする。
- ② 「心に残る子育て応援メッセージ集」を平塚市HPに掲載し、広範囲な読者及び利用を図る。
- ③ 「心に残る子育て応援メッセージ集」を以下に配付しその活用を図る。

#### 配付先と部数

- ・全公民館に各10部。
- ・主任児童委員に全地区各2部、必要な家庭に励ましの言葉と共に配付。
- ・公立私立幼稚園保育園に各3部。
- ・小中学校PTAに各5部。

## 活用方法

### ・公民館「家庭教育学級」にて、公民館長による講話の教材として活用。

「家庭教育学級」は、市内25の地区公民館で子どもの持つ自主性、創造力をどのように伸ばさせていくか、家庭教育の役割、機能等子どもを取り巻く諸問題を学習、研究討議を行い、相互学習をとおして家庭教育・社会生活に役立たせるために開設されている。子育て世代が多く参加すると思われる講座で、公民館長自らがこのメッセージ集を題材として講話いただきたい。

### ・主任児童委員「子育て支援教室」にて教材として活用、さらに必要な家庭に励ましの言葉と共に配付。

主任児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行っている。平塚市では23地区に主任児童委員が2名ずついるが、月に1回4歳位以下の子をもつ親を対象とした子育て支援教室を開いているので、そこでこのメッセージ集を教材として活用していただきたい。また、主任児童委員は、地域に密着して活動しているので、悩んでいる家庭に少しでも励みを与えられるようにこのメッセージ集を利用していただきたい。

### ・子育てに関連した多くの人が集まる場所（ファミレスやコンビニ等、小児科や歯科医院等）に掲示。

ふとした瞬間に何げなく目にとまり、押し付けがましくなく、読んだ人が「そうだなあ」と気付いていただくことで、このメッセージ集を地域にそっと寄り添わせたい。

### ・幼稚園・保育園の保護者会、小・中学校PTA各種部会にてミニ懇談会の実施。園長、校長やPTA本部役員等による、部会開催当日の日付けのメッセージのミニ講話の実施。

まさに子育て中の世代の中でこのメッセージ集について話あってもらうことで、規範意識の向上へつなげたい。

### ・公民館だよりや広報ひらつかの欄外に各号、一作品ずつ掲載依頼。

公民館だよりは月1回各地区公民館で発刊されている。地域の人目に入る可能性が一番高い媒体である。また、広報ひらつかは月2回全戸配付されている。そこで掲載していただければ、より多くの人に語りかけられるのではないかと考えた。

### ・広く市民の要望に応じ、メッセージ集を入手できるようにホームページからダウンロードできるようにする。

インターネット世代に対してもメッセージ集を身近に感じていただけるように対応したい。

## 2. 第2分科会

### 公民館の現状と課題－公民館主事へのアンケート調査結果から－

#### (1) テーマの選定にあたって

地域の特性を活かした公民館活動のありかたについては、これまでも社会教育委員会議から多くの提言がなされており、平成20年度～21年度の取り組み状況に関する検証も行われている。それによれば、公民館機能の刷新や事業の活性化、公民館主事や運営委員の人材活用などに取り組んでいるものの、不十分と評価された取り組みも散見される。地域の社会教育の拠点として、また地域住民同士の繋がりを強化する意味からも、公民館活動への期待は大きく、また改革の必要性も高まっていると考えられる。

そこで第2分科会では公民館主事へのアンケート調査を行うことによって、公民館活動の現状を内側から明らかにし、課題の抽出と提案を行うこととした。以下では、事業実施の流れに沿って、計画－実施－評価のそれぞれの段階における公民館主事の活動実態と問題意識を明らかにし、現状と課題および提案をまとめた。

なおこの調査研究は、公民館主事の抱える課題を明らかにしたうえで、各公民館の持つ情報を共有化し、さらに新たな視点からより具体的な提案を示すことによって、公民館活動の推進に寄与することが目的である。問題点の指摘にとどまることなく、公民館活動のより一層の充実と改革に有用な提言となることをめざした。

「公民館活動の現状に関するアンケート調査」

調査時期：平成23年8月

対象：公民館主事（25館）

記名式（公民館名）によるアンケート調査票を配布・回収

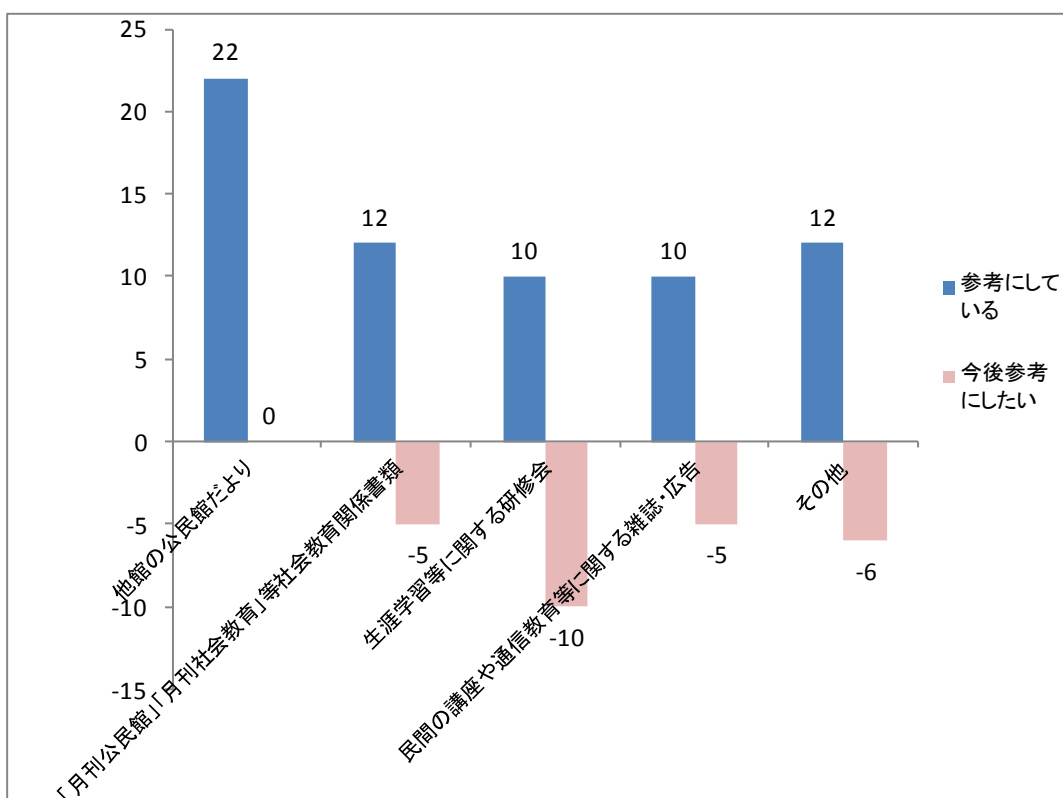
## (2) 現状と課題

### ①学習計画立案にかかわる情報収集について

「学習計画立案の参考とする情報を、どのような媒体から収集していますか？」(図表1～3)

- a.他館の公民館だよりから情報を得ている公民館が 22 館で最も多く、そのうち半数は全館の公民館だよりに目を配っている。
- b. 社会教育関係書類、生涯学習等に関する研修会、民間の情報を収集しているのは半数程度であり、今後は研修会の活用を考えている公民館が 10 館で最も多い。「その他の情報源」を持っているのは 12 館であり、「プラネットかながわ」は 3 館が利用している。
- c.他館の公民館だより以外の媒体からの情報収集を行っていないのは 5 館であり、そのうち 3 館の主事は新任である。経験の浅い主事は情報源が限られているものと思われる。

図表 1 学習計画立案の参考にする情報の収集 (n=24、複数回答)



図表 2 参考にしている公民館だより (館数)

全館	11
ブロック館を中心に、西ブロック館	3
岡崎、なでしこ、松原、須賀	1

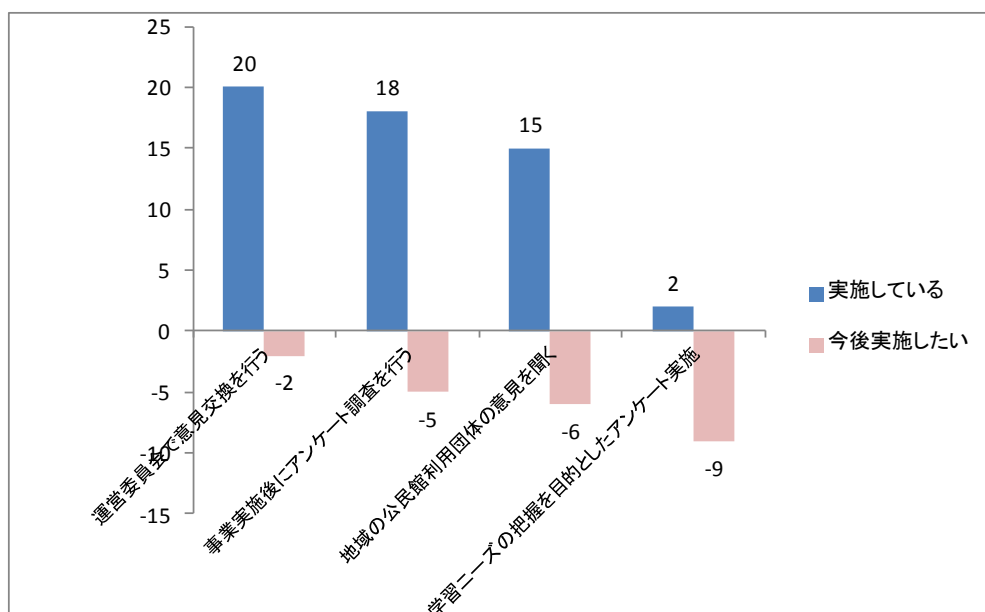
図表3 その他、活用している情報（自由記述）

マナビー・メールマガジン（文部科学省生涯学習政策局政策課地域政策室）
プラネットかながわ（神奈川県生涯学習情報システム）
講師.COM
他市町村のHP、広報紙、社会教育施設や公民館情報
某公民館職員のブログ

「地域住民の学習ニーズをどのように把握していますか？」（図表4～7）

d.ほとんどの公民館で事業参加者の意見を聞いており、運営委員や公民館利用団体の意見聴取を行っている館も半数以上ある。しかし、これらの方法では公民館を利用しない住民の意見を吸い上げることはできない。

図表4 住民の学習ニーズの把握（n=25、複数回答）



図表5 学習ニーズ把握のために話を聞く相手（自由記述）

小・中 PTA 役員、子どもの会、学校の先生、大学生、社会福祉協議会、民生委員
子育て広場に参加している保護者・なでしこ公園利用者（主に児童・生徒・高齢者）
ふだん公民館を利用している方から、初めて公民館に来た方など、さまざま
地域団体（青少年指導員・体育振興会・ママの会・社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会等）の代表者等
地域内各種団体の長や小中学校の学校長等
地域の団体等活動に参加しているが、公民館にあまり来館されない人
以前公民館運営委員だった方で公民館に時折来館される方（特定の人物）

- e.図表 6、7 から、公民館主事が地域住民とのコミュニケーションに努めていることがわかる。さらに、他公民館や他市町村からの情報収集を行っている館もあるが、数は少ない。
- f.新任主事 7 人のうち、4 人は「地域の知り合いの話を聞く（具体的にはどのような人ですか?）」「その他、ニーズ把握のために行っていることは?」という質問に回答していない。主事の着任後しばらくは地域住民からの情報収集が滞る可能性がある。

図表 6 ニーズ把握のために行っていること（自由記述）

地域 住民	自主事業企画スタッフとして、地域の方に参加してもらう
	運営委員会に意見を求める。利用団体や関係団体に話を聞く
	利用者連絡協議会を利用して、学習・施設運営等の改善点について意見交換会の実施
	地域の団体に話を聞く場合、その団体に関するだけでなく、世間話という感覚で個人の学習要望を伺っている。震災後は地震に関する問い合わせが多いため、具体的に心配な点などを聞いている
	公民館利用者に声をかけるようにしている
	公民館を訪れる方々、地域に出たときお会いする方など、とにかくよく、いろいろな話をする
公民 館関 係	他館の事業見学によって、住民の学習ニーズや参加者の反応などを確認している
	館長・事務員・管理人・周りの方との日々の会話・打ち合わせの中や、テレビ・新聞などのマスメディアの中から
	館内職員の話聞く
他市 町村	他市の広報紙
	他市町の社会教育行政職員との情報交換

図表 7 ニーズ把握のために今後行いたいこと（自由記述）

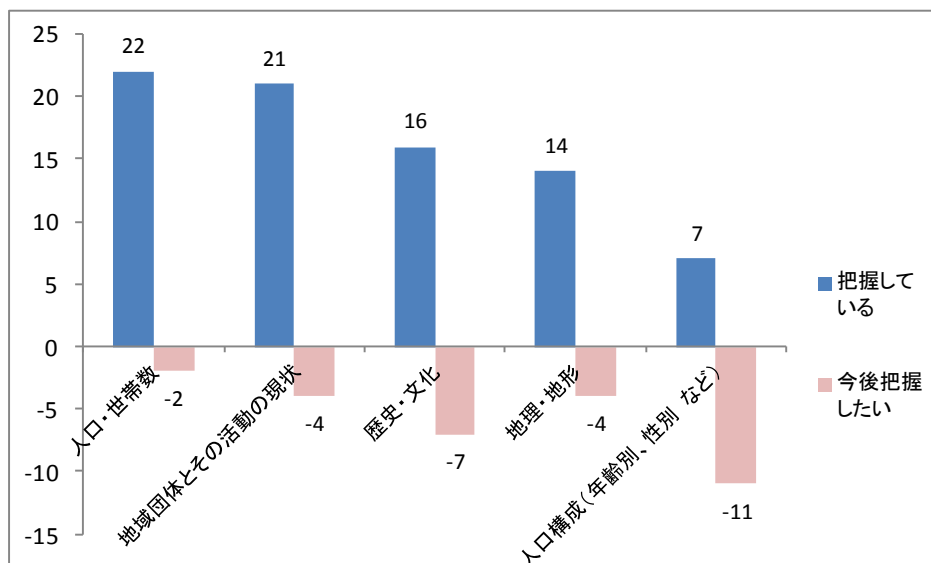
メールボックスを設置し収集をしたい
コミュニケーションを積極的にとっていく



「地域の現状を知るために、以下の情報を把握していますか？」(図表8～9)

g.人口・世帯数や、地域団体とその活動状況について把握していない館がある。どのような情報が公民館事業にとって有用か、特に自主事業の企画に役立つ情報は何かを検討する必要がある。

図表8 地域の現状把握 (n=25、複数回答)



図表9 その他、把握している地域の情報 (自由記述)

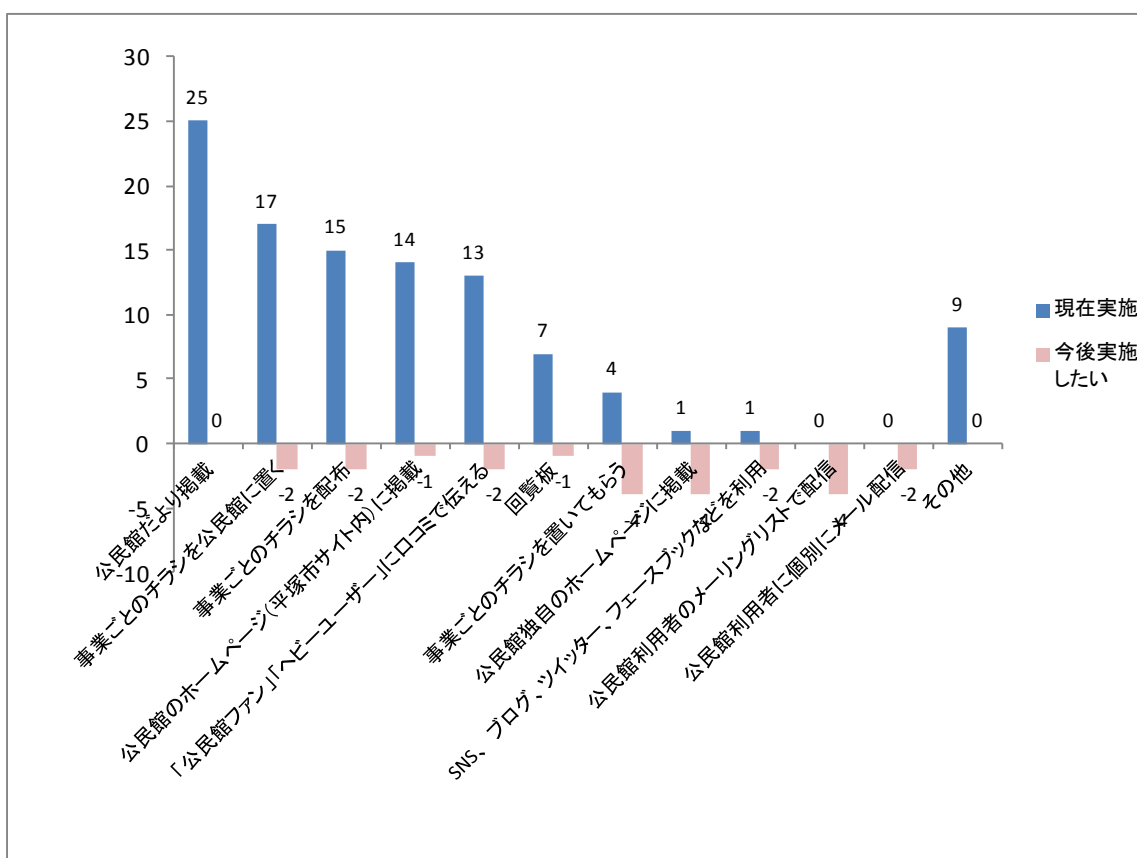
関係団体等の会議・地域の催し物への参加
学校行事等
地域史研究会から、来館時や公民館だより作成時に情報を提供していただいている
産業構成など
人間関係、家族構成

## ②参加者募集方法について

「事業への参加者を集めるために、どのような取り組みを行っていますか？」(図表 10 ~11)

- 全館が「公民館だより」でお知らせをし、また参加募集を行っている。次に多いのが「公民館にチラシを置く」(17館)、さらに「チラシを作って配布する」(15館)、「公民館 HP 掲載」(14館)、「クチコミ」(13館)と続く。
- これらの方法は特定の集団であるお年寄りや児童・生徒たちに対しては有効であろう。ただし必ずしも積極的でなく、相手の気持ちが靡くのを待つといった感じである。
- あらゆる世代の参加者を積極的に募ったり、また更なる公民館の活性化を図るには、図表 10 の「公民館独自のホームページに掲載」「SNS、ブログ、ツイッター、フェースブックなどを利用」「公民館利用者のメーリングリストで配信」「公民館利用者に個別メール配信」など IT を活用して個人宛に直接、かつ積極的に知らせる事が必要になる。しかし、これらを「実施している」あるいは「今後予定している」公民館は極めて少ない。

図表 10 事業参加者の募集方法 (n=25、複数回答)



図表 11 参加者募集について付帯質問の集計（自由記述）

チラシ設置場所

- 地域の幼・小・中学校、公共施設、病院、金融機関、農協支所

チラシ配布の場所とタイミング

- チラシの配布先・対象者の関係する機関（例えば幼・小・中学校、老人クラブ、町内の掲示板、商店）
- 配布タイミング：事業開催日の約1ヶ月前、「公民館だより」の配布時期に合わせて

SNS、ブログ、ツイッター、フェースブックなどの利用

- 利用している（1館のみ）
- 「ちいき情報局（湘南ひらつかおかざき）」に公民館だより等を掲載

その他の取り組み

- HPにて発信、地域情報誌に掲載、館内掲示板、自治会掲示板、商店店先、口コミ

### ③学級・講座事業の講師について

#### 「学級・講座事業の講師について、困っていることは何ですか？」（図表12）

- a.多くの公民館で講師に関する情報が少なく、新規事業企画が難しいと感じている。そのため、他館で頼んだ講師に依存しがちになり、それによって独自性がなくなると懸念している向きもある。地元在住の講師も乏しい。
- b.そのため、人材バンクや無償で頼める講師情報がほしいという意見が出された。

図表 12 学級・講座事業の講師に関する問題（自由記述を分類・集計）

困っていること・要望		件数
困っていること		
講師に関する情報が少ない		11
予算が合わない		10
新規開拓が難しい		8
地元在住の人材が乏しい		3
新規講座の企画が難しい		1
実施目標学級数と講師謝礼の額に無理がある		1
他館の事業・講師を参考にすると独自性がなくなる		1
初めて依頼する講師の力量が分からない		1
要望		
講師のための研修があればよい		2
講師に関する情報提供が必要		1
人材バンクがあればよい		1
無償でお願いできる講師の情報がほしい		1
予算が均等に配分されているが、事業計画により増減するのもよい		1

#### 「学級・講座事業の講師について、最近うまくいった事例があればお書きください。」

- c.民間企業等とのタイアップ（NTT ドコモ、DIY アドバイザー神奈川など）、保育園や平塚農業高等学校との共同企画、TV 出演講師やインターネットで検索した木工教室講師など、新たな提携先や講師を求めた企画がうまくいったとの記述が目立った。
- d.小中学校・社会福祉協議会・民生委員・地域団体などの地域のつながりを活かした成功事例もあった。
- e.市職員や地域の人材等、報酬を抑制できる人材も積極的に活用している。

### 「講師への謝礼金額はどのように決めていますか？」

- f. 「他の公民館での謝礼金額などの状況や実績を参考にしている」館がもっとも多く（11館）、「過去の謝礼金額を参考にする」（7館）、「事業の配分予算によって決める」（2館）、「公民館学習活動ハンドブックをもとに決めている」（2館）である。
- g. 謝礼に関するルールや規定はないとする公民館が4館。他館もほとんどが明確なルールは設けていないようである。ルールがあるとする公民館の場合は、地区内と地区外に分けている館と、独自に地域の人材バンクに登録し、ボランティアあるいは一定金額というように分類している。

### 「講師への謝礼について、問題点や改善案があればお書きください」

- h. 予算不足を指摘する館がもっとも多く、そのために高額な謝礼を必要とする専門的な講座が計画できない、謝礼負担の少ない講座に偏る傾向がある、などの問題が生じている。
- i. 統一的な基準を設けるべきとの意見が多い一方、基準が公民館と講師の関係を損なう可能性もあるのでルール作成は慎重にすべきとの意見も見られた。
- j. 学級数・時間を見直す必要性があるとの指摘があった。また講師謝礼の負担を優先して講座を検討する結果、住民サービスの低下につながるのではないかと懸念も出された。

#### ④事業後のアンケート調査の活用について

##### 「事業実施後のアンケート調査結果はどのように活用していますか？」(図表13)

- a. アンケートを実施し、結果を集計して次回の計画の参考としている。特に共通事業については、必ず次回に活かしているとの回答が3館あった。
- b. ただし、集計・報告して参考にするという漠然とした回答が多く、詳細な分析等を通じてアンケート調査結果を積極的に活用している様子は窺えなかった。また無回答が8館あった。

図表 13 事業実施後アンケート調査の活用方法（自由記述を分類・集計）

活用方法	件数
次回または次年度の事業計画立案の参考	9
結果を集計し、運営委員会に報告	6
事業改善のための資料として活用	4
共通事業に関しては必ず今後に向けての検討する	3
館内で回覧し意見交換を行う	1
現在は活用していない	1
無回答	8

##### 「事業実施後のアンケート調査結果について、今後どのように活用したいですか？」(図表14)

- c. 今後の活用については、講座に応じたアンケートを実施して講座の改善や参加者募集に活用したいという意見が挙げられた。ただし、図表 14 を見るとアンケート結果の公表や企画会議での活用をはっきりと挙げる館は少なく、無回答がもっとも多い。事業実施後の参加者の意見の活用については、取り組みが遅れていると考えられる。

図表 14 アンケート結果の今後の活用方法（自由記述を分類・集計）

活用方法	件数
講座よってアンケート内容を工夫し、今後のニーズ把握・講座改善・PRなどの工夫につなげたい	4
運営委員会に報告して採り上げる	4
次回の講座改善に活用	3
企画会議にて使用	1
公民館だより等で公表	1
無回答	9

## ⑤ブロック会議について

### 「ブロック会議は、公民館運営にどのように役立っていますか？」

- a. 19館がブロック会議を「情報交換や情報の共有化および情報の自館への応用・活用」に役立っていると答えた。また、ブロック共催事業の企画会議が行われている。
- b. また公民館主事の交流の場ともなっており、経験の浅い主事がベテラン主事に相談したり、アドバイスをを得る機会でもある。
- c. 実務的な会議に終わらず、公民館の使命や事業の在り方に関する議論をもっとすべきとの意見が見られた。

### 「ブロック会議で得た情報を活用して、事業がうまくいった事例など具体例があればお書きください。」

- d. 「参加者が少なかった事業をブロック共催事業に変更したところ、多くの参加者を集めることができた（家庭教育学級、美術鑑賞講座等）」「他館で成功している自主事業（家庭教育学級）を自主事業企画の参考にした」などの回答が得られた。

### 「ブロック会議をさらに活性化させ公民館活動に活かすためには、どのようなことに取り組んだらよいと思いますか？」

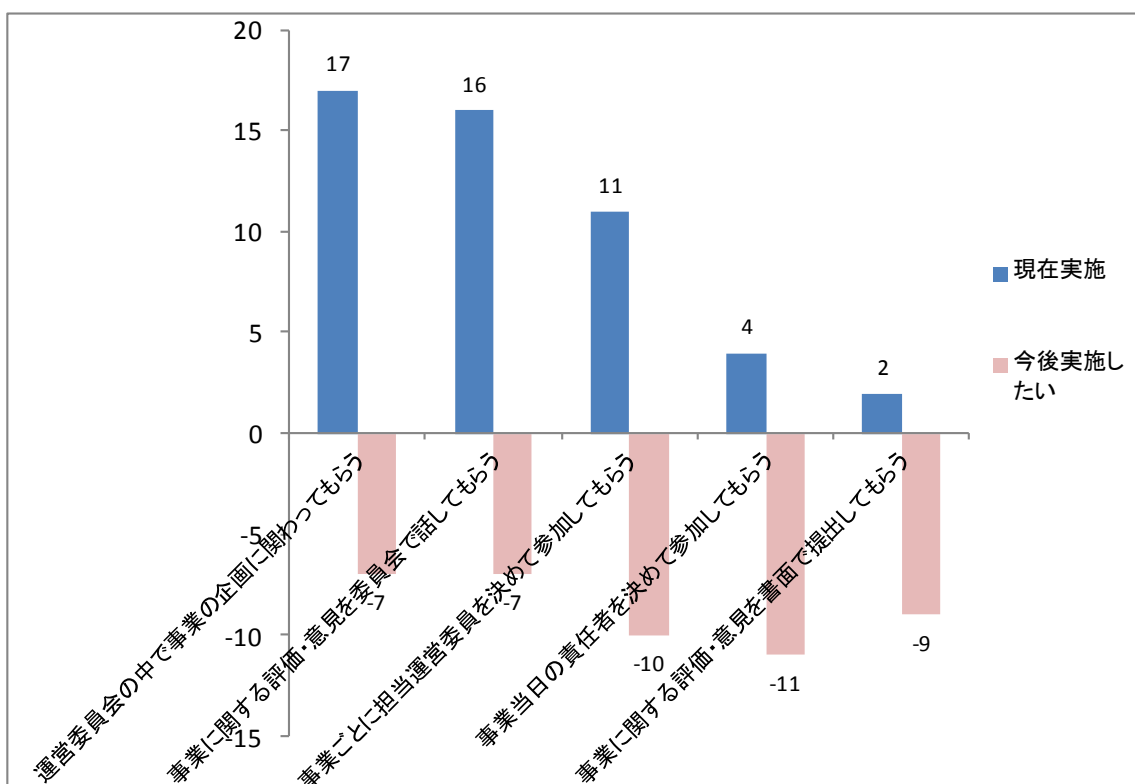
- e. 「ブロックを越えた交流が必要」「2つのブロックが合同で会議をする機会を設ける」「ブロック内を近いエリアで区切り、2～3館でも自主事業など共催する」など、ブロックをより柔軟に組み替えた地域での活動の提案が出された。
- f. 「事業運営の話題のみに終始しないよう進める」「各公民館で特色のある事業を率先してPRできる時間を持つ」「各ブロック会議の結果や状況を主事会議等にて報告する」「公民館長を交えたブロック会議の開催」など、ブロック会議を事業のための打ち合わせに終わらずに、もっと多様に活用したいという意見があがった。

## ⑥運営委員について

### 「公民館運営委員が実施していることと今後実施したいことは？」（図表 15～16）

a.事業の企画・評価などに参画している公民館は15館を超えており、事業ごとに担当運営委員を決めている公民館も11館を数える。しかし、今後実施したいとする館も少なくないため、運営委員の活動内容については、公民館による差異が大きいと思われる。

図表 15 公民館運営委員の活動内容（n=25、複数回答）



図表 16 運営委員のその他の活動内容（自由記述を分類・集計）

内容	館数
事業実施時に参加・協力	8
主催者として準備・運営	2
地域の人への紹介依頼・声かけ依頼	2
広報誌作成	1
通知書類等のポスティング	1



「運営委員は、公民館の運営に十分に機能していると思いますか？うまくいっていないとすれば、問題点は何ですか？（図表17）」

b.運営委員がその役割を果たし、十分に機能しているとする公民館は9館であり、その他の館から図表17のような問題点が指摘された。公民館主事は、運営委員にもっと主体的に事業参画してほしいと考えているが、多忙のため参加できない運営委員も少なくない事が窺える。他方、運営委員の意識の希薄さや頻繁な交代を指摘する意見も見られた。

図表 17 運営委員の活動状況と問題点（自由記述を分類・集計）

機能・問題点	館数
機能している・問題ない	9
運営委員が団体長や仕事等で多忙(参加できない)	5
主体的に運営する意識が弱い(手伝い意識)	5
あて職のため頻繁に交代する・あて職意識が強い	5
意見が出ない(公民館任せ)	1
企画や参画してもらえない	1
参加が主要企画に限られる	1
運営委員だけの運営は限界がある	1
参加範囲が明確でない	1
委員間で意識・レベルの差がある	1

「運営委員の協力を促進するために、今度取り組みたいことは？」（図表18）

c. 今後は、活発に活動している運営委員の実情を知らせたり、研修・講習会の受講を検討したいとしている。また、公募による選出や報酬の支払い方法についての記述もあった。

具体的な選出方法

- ・ 公募枠設置
- ・ 公民館で事業等を行いたい人を公募
- ・ 各種団体の長ではなく、実行部隊として動ける方を選出してもらう

その他の意見

- ・ 会議の運営方法を考える
- ・ 運営委員との親睦会
- ・ 他館の運営委員の公民館事業への関わり方の具体例を知ってほしい
- ・ 運営委員の報酬を時間に応じた金額、出席回数に応じた金額を支払う形式にする

図表 18 運営委員に関して今後取り組みたいこと

今後取り組みたいこと	館数
他の公民館や他地域の公民館運営委員との交流	14
運営委員を対象とした研修・講習会	10
運営委員の選出方法の変更	7
その他	4

## ⑦事業評価について

### 「事業後の振り返りや評価をどのような視点で行っていますか？」（図表19）

- a.事業評価で重視する視点は、参加者の感想、参加者数、参加者の内容理解度、事業目標の達成度、参加者層の拡大、の順である。他方、参加者が受講後に実践・活動しているかどうかや、講師の所感などについての重視度は、低い。

図表 19 事業評価に関する視点の重視度 (n=25)

事業評価の視点	重視度
参加者の感想(役に立ったか、参加してよかったかなど)	2.56
参加者数(予定人数の充足度)	2.52
学習内容に関する参加者の理解度	2.32
主催者(公民館)の、事業の狙い・目標に対する達成度	2.24
参加者層の拡大(年齢層、性別、職業など)	2.12
予期しない問題の発生や参加者の不満の有無	2.12
参加者の、公民館活動への要望	2.12
かかった費用に対する効果	1.92
講師の所感	1.72
参加者が、受講後に学習内容を実践しているか	1.64
参加者が、受講後に継続的に活動しているか	1.60

注)「重視度」では、上記の選択肢を「重視している」を3点、「考慮している」を2点、「どちらでもない」を1点で点数化し、各項目の加重平均値を算出した。

「事業後の評価を、事業改善や次の企画に活かしてうまくいった事例をご紹介します  
い」(図表20)

b.図表 20 で成功事例を見ると、参加者の感想や参加者数などの視点によって事業を評価し、その結果を次の事業に活かしている事がわかる。

図表 20 事業評価の活用に関する成功事例（記述のあった 13 館に関して）

成功事例	件数
開催時間帯・開催曜日の変更	2
内容は良い(学習要素高い)が参加率の低い講座と、人気の講座を併せて募集	2
講義型学習→参加者参加型への変更	2
企画委員に、小中学校長に加え幼稚園・保育園の園長に加わってもらった	1
高齢者学級への老人クラブを通じての動員をやめた(人員は減ったが中途退出が減少)	1
児童対象の事業に親子で参加できるようにした	1
「家庭教育学級」等堅いイメージの名称をキャッチフレーズをつけて募集したところ参加者増	1
翌年の講座実施を小 P 成人委員にアナウンスしたところ自発的に学習講座案を提案	1
前年度の課題・反省点・良かった点を次年度に活かした(参加者・講師意見・アンケート)	5

### (3) 提案

#### ①学習計画立案にかかわる情報収集について

・まず、公民館活動のために必要な地域の情報はどのようなものを検討し、各公民館が収集・管理を行うことが求められる。地域の人口構成、歴史や文化、地域団体の活動状況など、各公民館が継続的にデータを更新し、主事交代の際には情報の引き継ぎをしっかりと行って、地域の基本情報として活用することが望ましい。

・現状では、主として市内の他公民館の情報を参考にしているが、今後は他市町村や民間の生涯学習に関する情報を積極的に収集・活用すべきである。文部科学省や神奈川県生涯学習関連サイトや他市町村の情報などはインターネットで簡単に入手できるので、ぜひ活用して頂きたい。

・各館とも、運営委員や事業参加者の意見を聞いて参考にしているが、利用者の拡大をめざすためには、公民館を利用していない住民の声を把握することが求められる。公民館へ来ない住民の意見や学習ニーズを吸い上げる工夫が必要である。

#### ②参加者募集方法について

・児童・生徒や高齢者の参加にとどまらず、中間年齢層の公民館事業への参加拡大を目指す必要がある。そのためには、ホームページ、メーリングリスト、ツイッターなどのITを活用して個人に直接かつ積極的に参加を呼び掛けることも検討してほしい。

・ただし紙媒体による参加者募集の効果も大きいと思われるので、公民館だよりの各戸配布など、手間をかけて情報を確実に届けることも引き続きお願いしたい。

#### ③学級・講座事業の講師について

・講師に関する情報が少ないために事業のバリエーションが広がらず、地元在住の講師も少ないといった問題がある。今後は、地域人材に講師としての研修会に参加してもらうなど、講師の確保と育成の工夫が重要である。

・講師への謝礼金額について、統一ルールを設定するのは無理があるが、ある程度の基準を設けることを検討してはどうか。

・民間企業とのタイアップ事業や地域の様々な団体とのコラボレーションが成功しているので、今後とも多様な講師や事業リソースを探していくことが重要である。

・なお、学級数や時間を見直す必要があるとの指摘もあった。事業の数と質の両面の充実を図るために、現状の見直しに取り組んで頂きたい。

#### ④事業後のアンケート調査の活用について

・事業実施後のアンケート調査については、実施はされているが事業改善やニーズ把握のために十分に活用されているとはいえない。今後は、各講座に見合ったアンケート内容を工夫したり、公民館だより等で参加者の声を公表するなど、調査結果を積極的に活用す

ることが重要である。参加者の率直な意見は、事業改善のための参考資料になるだけでなく、事業の PR にも効果的である。積極的に公開し、活用してほしい。

#### ⑤ブロック会議について

- ・ブロック会議は情報の交換や共有化、あるいはブロック共催事業の打ち合わせ等に活用されている。今後は実務的な会議に終わらせず、公民館の使命や事業のあり方に関する議論の場としていただきたい。
- ・既存のブロックをより柔軟に組み替え、より小さなあるいは大きな括りによる地域での交流や活動を採り入れてはどうか。

#### ⑥運営委員について

- ・運営委員に対して、公民館主事は主体的・積極的な参画を期待しているが、実際には運営委員の形骸化や人材不足が懸念されている。平成 24 年度には運営委員の選考基準変更が予定されており、運営委員の選出がますます難しくなる事が予測される。選出方法や人材確保について、早急に検討する必要がある。
- ・運営委員の事業への参画については、公民館による格差が大きいこと事が推察された。運営委員の積極的な参画が実現している館の情報を共有化し、他館の工夫を取り入れてほしい。

#### ⑦事業評価について

- ・事業実施後の評価について、現状では主に参加者の感想や参加者数によって事業の成果を評価している。しかし評価の視点は多様であり、事業ごとにその目的を果たすことができたのかをきめ細かく検証することが求められる。今後は、事業を計画する時点から評価方法について検討し、さまざまな評価方法を試みて頂きたい。

#### ⑧その他

- ・本調査実施時点で、25 館中 7 館の主事が新任である。本調査によれば、新任主事は情報収集が不十分になりやすい。また公民館主事は専門性の高い職種であり、社会教育主事の資格を有する職員が就くことが望ましいとの提言が既に出されている。さらに、地域住民が公民館主事を育てているという側面もあるので、慎重な配置が求められるのみならず、一定期間以上の勤務を確保することが望ましい。
- ・回答全体を通して、公民館主事の取り組みや運営において、公民館ごとにバラつきが大きいことが分かった。上記の公民館主事の頻繁な異動が、このバラつきを大きくしていることも懸念される。公民館主事同士の交流や意見交換の機会をふやし、他館の工夫を積極的に取り入れて、公民館が相互に情報を共有・活用する仕組みを強化してほしい。

### 3. 第3分科会

**食育の意義や重要性を再認識し、社会教育の視点から食に関する平塚市の現状と課題を把握し、これからの方向性について提案する**  
—公民館の諸事業に食育活動を取り入れるための提案—

#### (1) テーマの選定にあたって

##### ・取り組みの契機

平成17年、国において食育基本法が制定され、この法を受けて地方公共団体は食育推進計画及び推進体制を整えた。（平塚市は平成22年）

その背景の食をめぐる問題として指摘されていることは、一家団欒が減り、孤食が増えていること、食を大切にする心や優れた食文化が失われつつあること、不規則な食事や偏食傾向、食に関する正しい知識の不足、肥満傾向や過度の痩身志向、生活習慣病の増加等様々である。今後、健全な食生活を取り戻していくことは喫緊の課題である。

##### ・取り組みの経過

こうしたことから本分科会では、食育基本法と平塚市の食育推進計画について勉強会を開催したり、小・中学校の食に関する取り組みや市民農園の見学、PTA活動及び公民館事業の調査を行ったりして、食育の必要性や状況把握に努めた。しかし、法制定の背景は非常に大きく社会的・国家的な広がりがあり、社会教育に視点を当ててもどこから切り込んでいったらよいか、また、その改善のための提案にどう結びつけたらよいか、大変な困難さを感じた。

国の推進計画には、食育を国民的運動として推進するための具体的な取り組みとして、7つ示されている。①家庭 ②学校 ③地域 ④民間団体 ⑤生産者と消費者の交流 ⑥食文化の継承 ⑦食品の安全性である。

そこで、地域における社会教育推進の中心であり、生涯教育の拠点施設ともいわれる公民館の活動に焦点を当て、食に関する事業の現状や課題を探り、これからの公民館活動でどのように食育に取り組んでいったらよいか具体的な方策を提案していくこととする。

## (2) 現状

平塚市における25公民館の全講座中「食に関する講座」は、ここ3年間のデータでは、各年約14～15%でほとんど大きな変化はない。更に詳しく主に平成22年度の公民館事業【(1)家庭教育学級(2)自主事業(3)児童生徒地域参加事業】に絞って食に関する事業の現状を探る。

- ① **家庭教育学級**は全公民館講座約600件の約15%を占め、その約20%が食に関する講座である。ほとんどの公民館で回数の差(0～6回)はあるが行っている。内容には「早寝・早起き・朝ごはん」「朝ごはんの大切さ」「好き嫌いをなくすための工夫」「育ち盛りの栄養」等、食育を直接的に打ち出した講座が複数ある。また、「子どもが喜ぶ」や「簡単料理」という視点もある。これらのことから、子育て期の母親世代が中心の講座なので、食育への関心が他の事業に比べ高いことや忙しさが窺える。

一方、平成22年度は地産地消や農業体験は2講座、食生活の改善は2講座、食文化の継承2講座等、内容によっては講座数が全館合わせても大変少なく、内容に偏りが感じられる。

- ② **自主事業**は全公民館講座の半数近い割合を占めている。さらに、その約15%～20%(約40～50件)が食に関する講座である。

11、12月はおもてなし料理が全館で9講座。お正月に向けて役立つ講座で、平均16名ぐらいの参加者がいる。年中行事の風物としてや食文化の伝承が期待できる、どんど焼きの団子作りやそうめん流しなどには、地域の大勢の人々が参加し親睦も深めている。親子で作る料理等の参加率もよい。

地産地消として、地元でとれたこんにやく芋を使ったこんにやく作りや、地元で取れた魚のさばき方、地元で取れた真竹を使ったそうめん流しなどがあるが、前面に地産地消を打ち出している講座は少ない。シイタケ栽培やプランターでの野菜作りなどの農業体験講座も食育としては注目するところであるが、数講座と少ない。

食に関する自主事業は7、8月と12月が多いが、夏休みや冬休みで比較的参加し易いことや伝統的な季節の料理であるという要因が考えられる。

- ③ **児童生徒地域参加事業**は、約4割の公民館で行っている。(自主事業の中に入っているところもある。)そうめん流しや餅つきなどは食文化の伝承や地域のふれあいの機会とも言える。農業体験(芋ほり)を通し、児童生徒に自然への関心と食べ物大切さを再認識させると共に、地域集団の共同意識の向上を図っているところもある。また、子ども達が、田植えから餅つきまで体験し、その間約360名が参加した継続型の講座は、地域ぐるみのダイナミックな食育活動として参考にしていきたい活動である。



### **(3) 課題**

- ① 社会教育や生涯教育の拠点としての公民館における事業の中で、食育に取り組もうとする意識を高めるにはどうしたらよいか。
- ② 親子料理教室等で、親子で料理する楽しさを味わわせたいが、仕事の関係や、家族の状況等の問題で講座等への大人の参加が難しい家庭も多いのではないか。
- ③ 核家族が多くなり、年寄りから料理法を学ぶ機会が少ない。さらに、外食産業が盛んになり、手間隙かけた料理はしなくても簡単に手に入る世の中になり、自分で料理する機会や関心が減少傾向ではないか。
- ④ 家庭教育学級で箸の使い方や魚の食べ方、食事のマナー等の講座がない。が、実際は身に付いていない子どもが目立つ。それらの正しい指導を家庭に期待したいが、若い年代層の保護者に、その点の問題意識が薄いのではないか。
- ⑤ 地場産の物を使い、地産地消の意識を高めるような講座が少ないのではないか。
- ⑥ 全体的に女性の参加が多く、男性の参加が少ない。食育は男性にとっても大切である。男性の参加を増やすにはどうしたらよいか。
- ⑦ 講座内容や講師の人材情報がほしい。

### **(4) 提案 「食育と地域の活性化をめざす、おいしい公民館！」**

#### **① 食育の講座の充実をはかろう**

- ・家庭教育学級で「食育に関する講座」を積極的に実施し、食育についての理解や実践力を身につけ、家庭での食育推進を呼びかけよう。
- ・自主事業をはじめ他の事業にも「食育に関する講座」を積極的に組み入れよう。
- ・食生活改善や食の安全に関する正しい知識を提供するための食育講座に積極的に取り組もう。
- ・食育は女性だけでなく男性も！親子や男性の参加も可能な曜日に設定したり、子育て期の忙しい年代のニーズに沿う内容を工夫したりしよう。

#### **② 連携・協力をしよう**

- ・各公民館で実施した「食育に関する講座」をデータベース化し、講座内容や講師人材について情報の共有化を図ろう。
- ・高齢者学級や家庭教育学級等の連携を図り、食文化の継承を図ったり、調理法を学び合ったりしよう。
- ・子ども達の食生活や食事のマナー(箸の持ち方や食べ方等)について、学校給食に携わる教員や栄養士と連携しよう。
- ・農協などによる地域情報を活用しよう。

### ③食を通して地域の活性化を図ろう

- ・地産地消の視点を食に関する講座に入れ、新鮮な食材の調理法や農業体験を積極的に実践し、地場産業の活性化に繋げよう。
- ・生産者との交流を図ったり、農作物への関心や大切さを実感したりすることが出来る農業体験等を積極的に行おう。
- ・年中行事の伝統的な食文化を継承しつつ、地域の人々とふれ合おう。
- ・夏休みや冬休みを有効に活用しよう。

### **3 あとがき**

今期（平成22～23年度）の平塚市社会教育委員会議の活動は、3つのテーマに絞り各分科会で研究調査をする事から、検証し提言をするものとなりました。

第1分科会・第2分科会・第3分科会、各分科会の研究調査は書式を統一し、「テーマ選定 → 現状・課題 → 提案」としてまとめました。その提案の部分を社会教育委員会議の提言としたいと思います。

第1分科会では、規範意識を向上させる目的で「心に残る子育て応援メッセージ集」を作成して有効活用を図ることを、第2分科会では、公民館の抱えている課題を解決する糸口や、現状をより良くする方法を、第3分科会では、提案のサブタイトル「食育と地域の活性化をめざす、おいしい公民館」のとおり、公民館を基点とした食育地域活動の充実を図ることを提案します。

各分科会のテーマは違いますが、最終的に行き着く先は、地域連携の重要性であることを再認識しました。行政、自治会、学校、各種団体、家庭、市民が手を取り合って協同及び協働参画する事により、明るい平塚市の将来が見えて来ることでしょう。

最後に、今回の提言書作成にあたり、社会教育委員一人ひとりが学習しそれぞれの意識向上につながりました。今後は、各委員がそれぞれの地域での活動において、この研究の成果を役立てるとともに、さらに研鑽を積んでまいりたいと思います。

## 平塚市社会教育委員名簿

役職	氏名	分野	分科会	推薦母体
議長	ヨネムラ 米村 ヤスノブ 康信	学識経験者	第2分科会	学識経験者 (エコミュージアム金目まると博物館)
副議長	ヤマグチ 山口 ヨシノブ 恵信	社会教育関係者	第3分科会	平塚市地域教育力ネットワーク協議会 (港地区青少年を守る会)
委員	オオハシ 大橋 チカコ 千賀子	学校教育関係者	第3分科会 書記	平塚市立小学校長会 (中原小学校)
委員	スズキ 鈴木 ユタカ 豊	学校教育関係者	第1分科会 リーダー	平塚市立中学校長会 (太洋中学校)
委員	アサミ 浅海 ハリコ 典子	学校教育関係者	第2分科会 リーダー	神奈川大学
委員	ツバキ 椿 カズヒロ 和弘	社会教育関係者	第2分科会	平塚市PTA連絡協議会 (大住中学校)
委員	カワイ 川井 タツロウ 達郎	社会教育関係者	第3分科会	平塚市自治会連絡協議会 (横内団地連合自治会)
委員	ナシモト 梨本 キョウコ 京子	社会教育関係者	第2分科会	平塚市地域婦人団体連絡会
委員	アシカワ 芦川 トシオ 俊雄	社会教育関係者	第1分科会	平塚市公民館連絡協議会 (崇善公民館)
委員	コイズミ 小泉 マサヒロ 仁颯	社会教育関係者	第3分科会	平塚市文化連盟 (平塚書道協会)
委員	アトベ 跡部 サエ 左恵	社会教育関係者	第1分科会	平塚市子ども読書活動推進協議会 (横内中学校)
委員	マツバラ 松原 エイコ 栄子	社会教育関係者	第2分科会	平塚市体育振興連絡協議会 (崇善地区体育振興会)
委員	ミカワ 三川 カズオ 一夫	家庭教育関係者	第1分科会	平塚市民生委員児童委員協議会
委員	ヤマムラ 山村 タカハル 高治	学識経験者	第3分科会 リーダー	公募市民委員
委員	スズキ 鈴木 イノリ 衣乃里	学識経験者	第1分科会 書記	公募市民委員